

令和5年度プロジェクト研究成果報告会

令和6年3月19日

個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する研究 —問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究—

北海道立教育研究所

I 問題意識

国及び北海道の現状

- ・各学校の教育活動において、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら探究的な学習活動を充実し各教科等の学習を深めることや、「総合的な探究の時間」等を中心に複数の教科等の見方・考え方を総合的・統合的に生かしていく探究活動を充実させていくことなどが求められています。

(令和4年度(2022年度)高等学校教育課程 編成・実施の手引、まえがき)

II 研究目的

各教科の問題解決や探究的な学びに係る実践成果の収集と普及

Ⅲ 研究方法

- 研修講座「教科研修～探究的な学びの充実に向けた授業改善～」の受講者から、遠隔での授業公開や学校訪問等をとおり、探究的な学びの具体に係る資料の収集および共同開発



Ⅲ 研究方法

○学校訪問概要

・訪問先、訪問日時、訪問状況

訪問日時	教科	訪問先	担当者
9月28日	英語	北海道奥尻高等学校	佐々木(康)KKS
10月5日	国語	北海道浦河高等学校	伊藤KKS
10月11日	英語	北海道釧路湖陵高等学校	佐々木(康)KKS
10月13日	数学	北海道礼文高等学校	渡辺SKKS
10月16日	地歴	北海道白老東高等学校	佐藤主査
10月27日	公民	北海道置戸高等学校	大端KKS
10月27日	国語	北海道白糠高等学校	伊藤KKS
11月9日	数学	北海道登別明日中等教育学校	渡辺SKKS、佐々木(祥)KKS
11月16日	理科	北海道羽幌高等学校	杉本KKS
12月20日	理科	北海道上士幌高等学校	林KKS

Ⅳ 結果

○学校訪問報告

- ・北海道浦河高等学校（令和5年10月5日（木））
川村 駿輔教諭（国語科） 「現代の国語」（訪問者：伊藤亜）

- ◆まなbellを用いた新聞記事の活用
- ◆学校設定科目「産業社会と人間」との
コラボレーション

POINT!

他教科と連携しながら、さまざまな場面で
探究活動に必要な資質・能力を育成



Ⅳ 結果

○学校訪問報告

- ・北海道白老東高等学校（令和5年10月16日（月））
柚原 航太教諭（地歴公民科） 「地理総合」（訪問者：佐藤）

- ◆導入部で、新聞記事プリントの活用
- ◆気候の学習におけるミニ探究の実施

POINT!

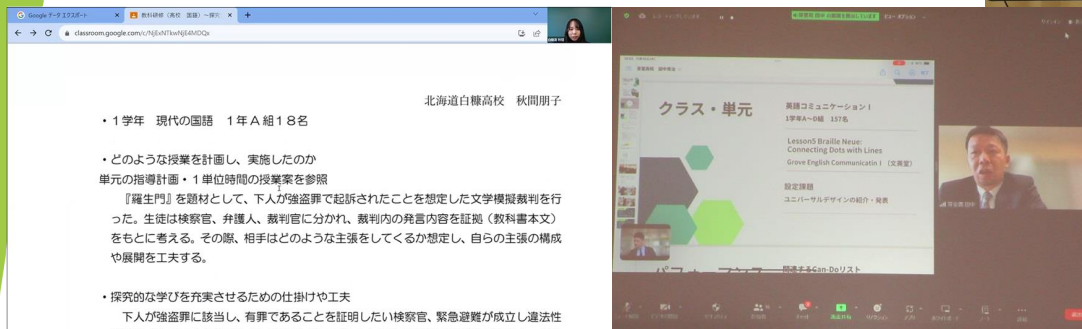
生徒の実態に合わせ、探究活動に向けた
トレーニングを計画的に実施



Ⅳ 結果

○学校訪問の本研究への還元の見通し

・11/14~17 遠隔型研修Ⅱの実施



→学校訪問の成果を他の研修参加者へ周知するとともに、研修後に研究協力者へ引き続き指導・助言を行い、実践事例のブラッシュアップを図る。

Ⅴ 分析

○探究的な学びの充実に係る授業改善

各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である

「見方・考え方」を生徒に育成するには、探究的な学びを積極的に取り入れた授業を日常的に実施することが有効である。

VI 考察

- 各教科において、探究的な学びを充実させるためには、次の観点から日常的に「仕掛け」を行うことが重要である。

【探究的な学びの充実の鍵となる4要素】

- ★社会とのつながりを意識した学び
- ★教科等横断的な学び
- ★協働的な学び
- ★ICTの活用

VII 成果（結論）

- 各教科における探究的な学びの充実に向けた授業改善のポイントについて、具体的な事例を基に明らかにすることができた。

【探究的な学びの充実に向けた授業改善のポイント】

1. 各教科において、探究的な学びを積極的に取り入れた授業を日常的に実施すること
2. 「社会とのつながりを意識した学び」「教科等横断的な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の4点を意識すること

VII 成果（普及）

○ 探究的な学びの充実に資する実践事例集の作成



地理歴史「地理総合」
北海道立教育研究所令和5年度プロジェクト研究
「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」
北海道白老東高等学校 柚原教諭

探究学習を充実させるための日常的な「仕掛け」

【概要】
北海道白老東高等学校柚原教諭は、探究単元であるC(2)に向けて、探究のプロセスを事前に体験する「ミニ探究」を行ったり、毎時間生徒に考え等を発言させる機会を設けたりすることで、生徒の苦手を克服し、探究学習を充実させるための実践を行いました。以下は、その具体的な実践例を紹介しています。

1 生徒の苦手を克服し、探究的な学びを充実させる工夫

○ 単元の指導と評価の計画の工夫

【観光マップ作り】世界の観光は、生活文化とどのような影響を与えているか？ また、観光文化にはどのような変化が見られるだろうか？

【問い】世界の多国籍観光の特色、人々の暮らしとどのように「食」を結びつけているか？

なぜ熱帯ではじゃがいもではなく、タロイモなのか？

【ミニ探究】（準備・グループ）
【ミニ探究】（準備・グループ）
【観光マップ作り】

【観光マップ作り】というテーマでミニ探究を行い、「地理的環境が衣食住等の生活文化にどのような影響を与えているか」という主題について、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のプロセスを体験する。

地理的環境が生活文化にどのような影響を与えているのかを考察するため、「食文化」に焦点を当てて授業を展開する。

「ふさわしい特色ある事例」として熱帯のタロイモを取り上げ、気候をどのような観点で考察するのかを生徒に示す。

大項目A「地図や地理情報システムで捉える現代世界」で身に付けた技能を、繰り返し使うことで、生徒に着実に定着させる。

○ 実践事例1

数学 北海道立教育研究所令和5年度プロジェクト研究
「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」
北海道登別明日中等教育学校 林 大輔 教諭

片対数グラフを用いた問題解決で対数のよさを認識する

【概要】
北海道登別明日中等教育学校林教諭は、単元「指数関数・対数関数」において、生徒が指数・対数のよさを認識できるようにするため、「片対数グラフ」を用いて日常の事象の問題を解決する授業の実践を行いました。以下は、その具体的な実践例を紹介しています。

1 単元を通して探究的な学びをデザインする

○ 単元のまとまりを通した授業計画の工夫

指導と評価の計画は、右のQRコードをクリック又は読み取って閲覧できます。

日常生活や社会の事象を数式化する

① 現実問題を既存の知識で分析することの難しさを理解し、問題を捉えやすくするための道具として対数を定義する。（1.2時間/11時間）

② 便利について指数関数や対数関数を使うと適切に表現できることに気づき、数学的に考察して課題を解決することができる。（9時間/11時間）

○ 「片対数グラフ」を活用し、日常の事象の問題を解決する

① 指数関数の導入における活用（1.2時間/11時間）

主発問「コロナの新規感染者数について、同じデータを2種類のグラフで表した。この2つのグラフの違いは何だろうか？」

【本時における2つの「工夫」】
指導と評価の計画の作成当初は「片対数グラフ」を対数関数の導入で扱う計画だったが、指数関数の考察に対数で活用できると考え、「片対数グラフ」を指数関数の導入で扱った。
生徒が日常の事象を数学的に捉えることができるよう、「生徒にとって身近な問題を扱うこと」、「実際のデータを用いること」を留意して資料を作成した。

② 単元のまとめにおける活用（9時間/11時間）

本時の問題 あなたは100万円を年率（複利）15%で借りた。その後一度も返済せず10年が過ぎた場合、借金総額はいくらくらいだと思いますか。

主発問「これまでに学習したことをどのように活用すれば、本時の問題を解決することができるだろうか？」

【本時の流れ】
「本時の問題」の考察、解決
⇒ 「新たな問い」の発生
⇒ 「新たな問い」の解決に向けた「重要課題」の考察

重要課題 借金の式の常用対数をとることは、グラフ1をどうすることなのか、自由に書いてみよう。

【探究的な学びの充実に資する4要素】

- ★ 社会とのつながりを意識した学び
- ★ 教科等横断的な学び
- ★ 協働的な学び
- ★ ICTの活用

2 生徒の感想（単元全体を振り返って）

- ・今回の単元では常用対数を使うことで簡単に解くことができました。指数関数と対数関数の単元はとても興味深かったです。
- ・将来、借金（車のローン）を組むかもしれないから、常用対数を使ってどれだけの借金になるのか予想してみたい。
- ・計算が大変でも、グラフ用紙1枚があればすぐ結果が分かってしまうことに驚いた。ローンの返済など自分が払うときが来たらこのグラフや計算を活用したい。

3 成果と課題（先生の感想等より）

【成果】「日常の事象を対数グラフを用いて数学的に考察する活動」を導入と終末に位置付けたことにより、指数・対数の有用性を認識させることができた。

【課題】ドキュメント等の共同編集機能で意見を集めるなどICTを活用して時間の短縮を図ることで、授業の中で考えを深める時間を増やしたい。

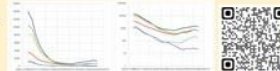
○「片対数グラフ」を活用し、日常の事象の問題を解決する

①指数関数の導入における活用（1・2時間/11時間）

主発問「コロナの新規感染者数について、同じデータを2種類のグラフで表した。この2つのグラフの違いは何だろうか？」

【本時における2つの「工夫」】

- ・指導と評価の計画の作成当初は「片対数グラフ」を対数関数の導入で扱う計画だったが、指数関数の考察に対数が活用できると考え、「片対数グラフ」を指数関数の導入で扱った。
- ・生徒が日常の事象を数的に捉えることができるよう、「生徒にとって身近な問題を扱うこと」、「実際のデータを用いること」を意識して資料を作成した。



厚生労働省HP「データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—」のオープンデータを使ってグラフを作成した。

本時の学習指導案、ワークシート及び資料等は、下のQRコードをクリック又は読み取って閲覧できます。

本時の確認課題

ある日100万円の借入（複利）15%で借りました。その後一度も返済せず10年が過ぎた場合、借金総額はいくらくらいだと思いますか。

1 時間目の終末に扱った内容を

重要課題 | 重要課題

②単元のまとめにおける活用（9時間/11時間）

本時の問題

9時間目に「本時の問題」として捉え直す

あなたは100万円を年率（複利）15%で借りました。その後一度も返済せず10年が過ぎた場合、借金総額はいくらくらいだと思いますか。

主発問「これまでに学習したことをどのように活用すれば、本時の問題を解決することができるだろうか？」

【本時の流れ】

- ⇒ 「本時の問題」の考察、解決
- ⇒ 「新たな問い」の発生
- ⇒ 「新たな問い」の解決に向けた「重要課題」の考察

「新たな問い」
・借金が5000万円を超えるのは何年後か？
・1億円だったらどうか？

本時のワークシート及び資料はこちら

重要課題 借金の式の常用対数をとることは、グラフ1をどうすることなのか。

自由に書いてみよう。



○ 実践事例

北海道立教育研究所令和5年度プロジェクト研究
「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」
北海道白糠高等学校 秋間 朋子 教諭

相手を意識した話し方や根拠の示し方の探究

【概要】

北海道白糠高等学校秋間教諭は、「話すこと・聞くこと」の領域において「言語文化」での小説『羅生門』の読み取りを踏まえた、模擬裁判という言語活動を取り入れた単元をとおして、探究的な学びを充実させる授業改善に取り組みました。以下は、その具体的な実践例を紹介しています。



1 探究的な学びを充実させる工夫

○ 単元の指導と評価の計画の工夫

(主な学習活動)

- ・動画を視聴し、裁判の流れを理解する

詳細はこちら

「公共」の既習事項の活用

- ・情報を整理し、効果的な主張を組み立てる（「情報の収集・整理・分析」）

役割ごとのグループで協働的に学びを深める

- ・模擬裁判の実施と相互評価（まとめ・発表）

GoogleFormsの活用

○ 相互評価のリアルタイム活用による振り返りの深化

1. 模擬裁判の傍聴人役の生徒はGoogleFormsで「弁護人」「検察官」の尋問について評価し、その理由を文章で入力する。
2. 「裁判官」による判決の説明後、傍聴人は有罪・無罪どちらだと思ったかを挙手させ、理由を説明させる。
3. 有罪だったら、量刑はどの程度が妥当だと考えるか、その理由は何かなどを傍聴人役の中から指名した生徒に発言させる。

生徒の発言や相互評価のコメントから、着目すべき発言を取り上げ解説し、より効果的に相手を納得させるには、どのような方法が考えられるか思考を促す

○ 発問・声かけの工夫

「主張の根拠は適切だった？」「裁判で勝利した）○側にも不備があったということだね」「判決の理由は妥当だった？」「執行猶予になると思うのはなぜ？」「相手の失言には気が付いた？」「あの場でどう返せばよかった？」

目標に意識を向けさせ、相互評価の妥当性を高める工夫
生徒の発言を整理し、議論の活性化を図る工夫

2 生徒の様子

- ・裁判の証拠を採すため、小説『羅生門』を読み返し、情報を細かく整理していた。
- ・裁判当日、相手は何を言っても反論できるようグループ内で意見を出し合い準備していた。
- ・話す内容だけでなく、話す際の声の大きさや堂々とした態度などが重要だと理解していた。
- ・準備した中から反論に適した内容を即座に選ぶ難しさや、聞きながらメモを取り、自分の考えが相手に伝わるよう言語化する難しさを実感していた。



3 取組の成果と課題（先生の感想等より）

【成果】

- ・動画の視聴を取り入れることで、自分の考えを伝えるためには「話す内容」だけではなく、「話し方や態度」も重要であることを意識づけられた。
- ・裁判の準備のため、情報を収集・整理・分析する際、グループごとに行い、違う立場の生徒も交えることで、さまざまな視点からの意見が生まれた。

【課題】

- ・裁判の中で述べられた主張を、論理的な妥当性ではなく、「共感できる」などの感情に拠って判断してしまいがちな生徒への対応。

4 新たな取組とその見通し（先生の感想等より）

【新たな課題への対応など】

- ・準備してきたことを、本番で十分生かせるようにするため、状況に応じた話し方や聞き方を身につける工夫。
- ・卒業を見通した三年間の教科の計画を見直し、指導事項を螺旋的・反復的に繰り返しながら「話すこと・聞くこと」の資質、能力を育成する。

【探究的な学びの充実の鍵となる4要素】

★社会とのつながりを意識した学び

★教科等横断的な学び

★協働的な学び

★ICTの活用

○ 単元の指導と評価の計画の工夫

(主な学習活動)
・動画を視聴し、裁判の流れを理解する

詳細はこちら



「公共」の既習事項の活用

○ 相互評価のリアルタイム活用による振り返りの深化

1. 模擬裁判の傍聴人役の生徒はGoogleFormsで「弁護士」「検察官」の尋問について評価し、その理由を文章で入力する。
2. 「裁判官」による判決の説明後、傍聴人は有罪・無罪どちらだと思ったかを挙手させ、理由を説明させる。
3. 有罪だったら、量刑はどの程度が妥当だと考えるか、その理由は何かなどを傍聴人役の中から指名した生徒に発言させる。

生徒の発言や相互評価のコメントから、着目すべき発言を取り上げ解説し、より効果的に相手を納得させるには、どのような方法が考えられるか思考を促す

○ 発問・声かけの工夫

「主張の根拠は適切だった?」「(裁判で勝利した)〇〇側にも不備があったということだね」「判決の理由は妥当だった?」「執行猶予になると思うのはなぜ?」「相手の失言には気がつけた?」「あの場でどう返せばよかった?」

目標を意識を向けさせ、相互評価の妥当性を高める工夫
生徒の発言を整理し、議論の活性化を図る工夫

2 生徒の様子

- ・裁判の証拠を探すため、小説「羅生門」を読み返し、情報を細かく整理していた。
- ・裁判当日、相手が何を言っても反論できるようグループ内で意見を出し合い準備していた。
- ・話す内容だけでなく、話す際の声の大きさや堂々とした態度などが重要だと理解していた。
- ・準備した中から反論に適した内容を即座に選ぶ難しさや、聞きながらメモを取り、自分の考えが相手に伝わるよう言語化する難しさを実感していた。



実践事例

北海道立教育研究所令和5年度プロジェクト研究
「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」
北海道白老東高等学校 柚原教諭

探究学習を充実させるための日常的な「仕掛け」

【概要】

北海道白老東高等学校柚原教諭は、探究単元であるC(2)に向けて、探究のプロセスを事前に体験する「ミニ探究」を行ったり、毎時間生徒に考え等を発言させる機会を設けたりすることで、生徒の苦手を克服し、探究学習を充実させるための実践を行いました。以下は、その具体的な実践例を紹介しています。



1 生徒の苦手を克服し、探究的な学びを充実させる工夫

○ 単元の指導と評価の計画の工夫

詳細はこちら

地理的環境が生活文化にどのような影響を与えているのかを考察するため、「食文化」に焦点を当てて授業を展開する。

「ふさわしい特色ある事例」として熱帯のタロイモを取り上げ、気候をどのような観点で考察するの

○ ミニ探究(観光マップを作ろう!)

詳細はこちら



ミニ探究のまとめとして、気候帯ごとの観光マップに関するプレゼンテーションを行った。生徒は、地理的環境が衣食住等の生活文化にどのような影響を与えているか、具体的な情報をもとに、発表を行った。

ミニ探究の振り返りにおいて「新たな問い」を記録しておくことで、探究単元における地域課題の設定の際に大いに参考となり、生徒のスムーズな課題設定が可能となる。

○ 新聞記事プリント

自分の意見をまとめ、説明するのが苦手な生徒が多いという現状をふまえ、その日の主な新聞記事をまとめたプリントを配付し、その記事に対する自分の意見を1分間で説明するトレーニングを、毎時間授業のはじめに実施している。

2 生徒の様子

- ・探究のプロセスを理解し、見通しを立てて取り組んでいるようである。
- ・探究学習の課題設定の際に、スムーズに行うことができた。
- ・探究学習の成果発表において、自分の意見をクラスの前で上手に話せるようになった。

3 取り組みの成果と課題

- 【成果】
- ・生徒の実態に応じた継続的な取組により、苦手分野を克服できた。
 - ・ミニ探究の実施により、スムーズな探究活動の実施が可能となった。
- 【課題】
- ・各単元に対する配当時間数のバランス

4 新たな取組とその見通し

- 【新たな課題への対応など】
- ・探究的な学びの学習内容の再考と、生徒の学びの変容の評価方法

【探究的な学びの充実の鍵となる4要素】

- ★社会とのつながりを意識した学び
- ★教科等横断的な学び
- ★協働的な学び
- ★ICTの活用

○ ミニ探究（観光マップを作ろう！）

詳細はこちら 

選んだ国について 発表・作成 ()

<理由>

1. ブラジルはちょうど日本の反対側に位置していて日本との共通点、類似しているところばかりです。

2. 授業の中で、ブラジルの主食、気候に絡んで来なかったのでこの機会に調べてみたいと思った。

ブラジル 地図で見てみると...

〜500の倍率を記録〜

日本の22.5倍の大きさ!



ミニ探究のまとめとして、気候帯ごとの観光マップに関するプレゼンテーションを行った。生徒は、地理的環境が衣食住等の生活文化にどのような影響を与えているか、具体的な情報をもとに、発表を行った。

気候の特徴 発表・作成 ()



食卓について 発表・作成 ()

イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、フランス人が使っている

魚く肉 珍なもの、揚げ物、濃い味付け 多


⇒ 日本と同じ

今日() 重要なこと

【单元を貫く問いの等式】@教科書前記入

新たな問い(もっと調べたいと思ったこと)

ミニ探究の振り返りにおいて「新たな問い」を記録しておくことで、探究单元における地域課題の設定の際に大いに参考となり、生徒のスムーズな課題設定が可能となる。



○ 実践事例! **理科「生物」** 北海道立教育研究所令和5年度プロジェクト研究 「問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究」 北海道立土幌高等学校 池浦 真奈美 教諭

生物のしくみを「見だして理解する」ための工夫・改善

【概要】北海道立土幌高等学校池浦教諭は、「生物」の授業を通して、生徒に科学的に探究するために必要な資質・能力を育むため、授業改善に取り組みました。以下は、その具体的な実践例を紹介しています。

1 単元の指導と評価の計画の改善について

○ 単元の指導と評価の計画に、扱う探究の過程と身につけさせたい資質・能力を明記

時	扱う学習活動 【扱う探究の過程】 【達成する資質・能力】	知識・技能	社会とのつながり
11	・生得的な要素と普遍的な要素が、環境からの刺激に応じた行動を生み出すことを理解する。 【自然現象に対する気付き】 【現象が理解する力】	○	・ロボット工学とのつながり
12	・観測家(フレームワーク)によって生じる行動を予想し、プログラミングソフトでシミュレーションする。 【現象や概念等に対する新たな知識を再構築したり、獲得したりする力】	◎	・ロボットへの応用 ・情報の授業とのつながり
13	・動物の行動と神経の動きを関連付けて理解する。 【課題の設定】 【抽出・整理した情報について、それらの関係性(共	○	・動物行動学や脳科学とのつながり

○ 生徒の様子

- ・カイコガの探索行動を知識として捉えるのではなく、どのような命令系統で行動が起きているのか、そのしくみについて深く考えていた。
- ・プログラミングの結果、予想通りの探索行動が表現できないこともあったが、試行錯誤を繰り返して、粘り強く取り組む姿が見られた。
- ・「いつフェロモンが分泌されるのか?」「フェロモンが伝わる範囲はどのくらいか?」等、新たな疑問を見いだしていた。

日頃からグループワークに取り組んでいるため、生徒が安心して発言できる雰囲気醸成されており、活発な意見交換が見られた。

→ 動物の行動のしくみを細分化し、科学的に考える力の育成へ

○ ICTの活用

- ・教科書のQRコードに示されたデジタルコンテンツを活用し、生徒の理解を促している。デジタルコンテンツの活用によって、これまでの指導をより効果的かつ効率的に行うことができるようになり、探究的な学びへとつながっている。
- ・Google Classroomにプログラミングの成果物を提出させることで、生徒の取組状況を的確に把握し、授業者自身が授業の改善を図るとともに、生徒への必要な手立てにつなげている。また、成果物が蓄積されることで、生徒がこれまでの取組を振り返り、次の学びにつなげることが可能となっている。

→ ICTの活用によって、生徒の学習効率が向上

3 取組の成果と課題

【成果】

- ・単元の指導計画を改善し、普段から探究の過程を意識した授業を行ったことで、生徒が考えたり話し合ったりする場面をこれまで以上に設定することができた。その結果、「歩行様式と脳の発達に関係性はあるのか?」「筋肉が肥大するのはどうしてか?」等、学習事項と身の回りの事象を関連付けながら、生物のしくみについて、新たな疑問や課題を見いだす生徒が多く見られるようになった。今回の授業改善が、生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上につながったと感じている。

【課題】

- ・今回活用したプログラミングソフトでは、座標軸の概念が必要であった。今後、小学校でプログラミングを学んだ生徒が入学してくることになるが、情報だけではなく、数学とも連携した教科横断的な学びを模索する必要がある。

【探究的な学びの充実の鍵となる4要素】

- ★社会とのつながりを意識した学び
- ★教科等横断的な学び
- ★協働的な学び
- ★ICTの活用

2 授業における工夫について

→ [こちら](#)



- プログラミングソフト「スクラッチ」を活用し、カイコガの探索行動をシミュレーションする
- ・動物の行動については、知識の伝達になりがちな分野である。生徒が自ら問題を見だし、課題を設定することができるよう、実際のロボットにも活用されているプログラミングソフトを活用し、カイコガの探索行動をシミュレーションする授業を行った。



→ 生徒が見いだして理解する学習活動へ

○ ICTの活用 **情**

- ・教科書のQRコードに示されたデジタルコンテンツを活用し、生徒の理解を促している。デジタルコンテンツの活用によって、これまでの指導をより効果的かつ効率的に行うことができるようになり、探究的な学びへとつながっている。
- ・Google Classroomにプログラミングの成果物を提出させることで、生徒の取組状況を的確に把握し、授業者自身が授業の改善を図るとともに、生徒への必要な手立てにつなげている。また、成果物が蓄積されることで、生徒がこれまでの取組を振り返り、次の学びにつなげることが可能となっている。

→ ICTの活用によって、生徒の学習効率が向上

VIII 今後の課題

○ 研究の成果の更なる学校への還元方法の確立

- <例>
- ・教育課程研における参加者へのアナウンス
 - ・教育課程編成・実施の手引への掲載

○ 各教科における探究的な学びの評価方法の研究

引用・参考文献

文部科学省(2018). 高等学校学習指導要領（平成30年告示）

文部科学省(2018). 【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター(2021).
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）

令和5年度プロジェクト研究成果報告会

令和6年3月19日

個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する研究

—問題解決や探究的な学びの充実に向けた授業改善に関する研究—

御清聴ありがとうございました。

北海道立教育研究所